医甲様式２

論文審査の要旨(甲)

申請者領域･分野　氏名	病態制御科学領域　消化器内科学教育研究分野 氏名　須藤　信哉
指導教授氏名	櫻庭　裕丈
論文審査担当者	主　査　袴田　健一 副　査　佐々木賀広　　副　査　鬼島　宏

（論文題目）Clinical features of fecal immunochemical test-negative colorectal lesions based on colorectal cancer screening among asymptomatic participants in their 50s （大腸がん内視鏡検診で判明した 50 歳代無症状者での免疫学的便潜血検査陰性の大腸病変の特徴）

（論文審査の要旨）900 字程度

本邦では，40 歳以上を対象に免疫学的便潜血検査（fecal immunochemical test ; FIT）2 回法が大腸がん検診に広く適用されている。一方、FIT 陰性を背景とする中間期がんが一定数存在することから、全大腸内視鏡検査（Total colonoscopy ; TCS）による検診も提唱されている。しかし、検診を全て TCS で行うには限りある医療資源の観点から現状困難なため、申請者らは、FIT 陰性例の大腸病変の臨床的特徴を明らかにし、FIT 陰性例に対する TCS 検診の施行基準の策定を試みている。

方法は、青森県大腸がん検診モデル事業で、自由選択方式で行われた FIT 単独，TCS 単独，FIT+TCS の 3 種の検診のうち、FIT+TCS で FIT 陰性例（FIT 陰性群）と TCS 単独を選択した者（TCS 単独群）を対象とし、内視鏡画像ならびに既報の大腸癌リスク因子について解析し、比較検討した。結果、FIT 陰性群は 1370 人（56.2%），TCS 単独群は 1067 人（43.8%）で、 FIT 陰性群のうち，63 人（4.6%）が Advanced neoplasm (AN)を，159 人（11.6%）が Sessile serrated lesion (SSL)を有していた。 TCS 単独群のうち，55 人（5.2%）が AN を，136 人（12.7%）が SSL を有していた。 AN と SSL について，FIT 陰性群と TCS 単独群間での単変量解析では，FIT 陰性群では優位に右側結腸の AN が多かった。SSL は臨床的特徴と病変の位置において，2 群間に有意差はみられなかった。また、多変量解析による AN のリスクは男性，55-60 歳，喫煙者,大腸がんの家族歴であり、この結果はアジア人の無症候性 AN リスクのスコアリングシステムである APCS (Asia - Pacific Colorectal Screening) スコアと同様であった。以上より、本邦の大腸がん検診において FIT 陰性がんを検出する方法として、逐年の FIT に加えて，APCS スコアに基づいて大腸がんハイリスクと判定された 50 歳代の者に対して 1 回の TCS を追加することを提唱している。本研究は、独自のデータベースからより効率的な検診方法を提唱した点で新規性が高く、学位授与に値する。

公表雑誌等名	Asian Pac J Cancer Prev. 2022 Jul 1;23(7):2325-2332. doi: 10.31557/APJCP.2022.23.7.2325.